

法 前 皇 著 懷 櫄 例 任
興 太 樞 於 櫄 惆 尺 尺
元 后 痘 痘 床 床 妻 寸
一 期 期 時 時 佛 佛 王
年 千 年 金 明 金 金 金
年 年 金 金 金 金 金 金
歲 歲 金 金 金 金 金 金
水 水 金 金 金 金 金 金
月 月 金 金 金 金 金 金
廿 廿 金 金 金 金 金 金
辛 辛 金 金 金 金 金 金
辛 辛 金 金 金 金 金 金
辛 辛 金 金 金 金 金 金
己 己 金 金 金 金 金 金
世 轉 三 仍 二 二 二

日本の金石文⑦ 「法隆寺釈迦三尊造像記」

623年

図版②



奈良法隆寺金堂の「釈迦三尊像」（金銅仏、図③）の光背の裏面に刻された造像記である。銘文は、1行あたり14字、14行、196字からなる。35センチ四方の中に刻されている。主図版には、巻頭部分をほぼ原寸の大きさで示した。一字の大きさは、縦横1.5センチほどである。書体は楷書で、やや横長で、ゆつたりした趣が強い。文字の構成は、六朝末期の佛教摩崖刻石の書風に通じる所がある。（比較図版②のCは、隋時代の「文殊般若經碑」の集字である。文字の大きさが、極端に異なるので比較するには適当でないが、ほぼ同じ大きさに直して比較した。）この「法隆寺釈迦三尊造像記」は、日本の古代金石文のかで、最も有名なものの一つであろう。手拓するところが難しいためであろうか、古くから多くの翻刻拓本が作られてきた。有名な『日本金石図録』（神田喜一郎監修 大谷大学編 1972年一玄社刊）は、巻頭にこの「釈迦三尊造像記」の大谷大学所蔵拓本をほぼ原寸大に掲げている。過去の影印された資料や原刻拓本と比較すると、文字が小さいので見分けがたいが、丁寧に見れば、図版②に示したように、明らかに弁別することができる。この種の翻刻拓本が、「日本金石図録」のように原刻拓本と見なされていることが間々ある。

伊藤 滋 メールアドレス
mokkei@galaxy.ocn.ne.jp



図版③

書道芸術院

平成の群像 (2014)



第66回書道芸術院展出品作

だいぶ以前の話になりますが、たぶん秋季展だったと思います。私の作品の前で本人がそこにいるとも知らず2人の方が「この作品漢字？現代詩文書みたいだな」と会話をしていました。私は思わず「どういうことですか」と聞きたくなりましたが恥ずかしくてできませんでした。後で私の考えたことは漢字だって現代の漢詩を書けば現代詩文書なのではないかという屁理屈のようなことでした。そこで当時勤務していた大学の中国語の先生に夏休みの一時帰国のお際に中国で現代の詩文の本を買ってきてく

ださいとお願いしました。そしてその本の中から詩を選び漢文の現代詩を書いていました。しかし漢字だけで書いてあるのですから「これは漢字の現代詩文書ですよ」と私が思っていても誰も気づきません。たぶん変な漢字作品だと思っていたのでしょうか。そんな無駄な抵抗をしていた時期を経て「現代の書とは」ということを考えるようになります。漢字の場合は勝手に文字を崩すことはできません。字書を引き、そこから構築して作品にしてゆくのですが私の作品は読みづらい（文字がわからない）

现代化関係の図書を扱っていますので、昔の作品集等も目にしますが、その中に先人達が自分の書を生み出してきた苦労を感じます。『自分の書』イコール『現代の書』だと思います。現代の書を求めて、少しはまともになりたいと願いながら（歳のせいでしょうか？）独りよがりにならぬよう先生方の意見を聞き、誤字だけは避けようと思つて字書を引きながら相変わらず馬鹿な作品を作っていますが道は



麻 生 峰 扇

と言わっていました。師の種谷扇舟先生に「あの字は何だ」とよく聞かっていましたが、ある時先生が私の創作ノートを見て「字をきちんと調べて書いているんだね。それなら良し」と容認してくださいました。諦められたのかもしれません。そんな訳で益々エスカレートしてしまいました。

しかし、たとえ古代の文字で書いていたとしても現代の書作品は自分の思いを乗せアレンジしているのですからそのままの古典ではないはずです。漢字や仮名を古典として現代詩文書や前衛書等を現代書とする考え方があるようですが、私は現代に生きる方があるように思います。特に現在も変化しているように思います。特に現在在書道関係の図書を扱っていますので、昔の作品集等も目にしますが、その中に先人達が自分の書を生み出してきた苦労を感じます。『自分の書』イコール『現代の書』

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第66回毎日書道展盛大に開幕
室井玄鑑氏文部科学大臣賞に

陳列し、多くの関心と反響を呼んでいた。特に5年ごとの記念展の足跡は、毎日書道展ならではの特筆すべき文化交流の実績を物語るもので、多くの観客が関心を寄せている。



開幕式

5月の搬入・鑑別、6月の審査、7月会員賞選考、7月9日より国立新美術館会場前期展が、同16日から東京都美術館も開幕した。9日午後1時半より朝比奈豊毎日新聞社社長・毎日書道会理事長、青木保国立新美術館館長、船本芳雲第66回展実行委員長、糸賀靖夫毎日書道会専務理事、企画展示実行委員長辻元大雲の5名によるテープカットが行われ華やかに開幕した。

出品全作品より選考される文部科学大臣賞には漢字部の室井玄鑑氏の「心動歸止」一行書が輝いた。会員賞は各部より計26名が受賞、本院からは刻字部工藤渕舟氏、前衛書部の知野洛水氏の2名が受賞した。その他公募会友などの成績は次号にて報告予定。

企画展示の「毎日書道展 海外交流のあゆみ」は1970年より始まつた海外での展覧会の歴史を写真・新聞記事などの資料とともにわかりやすく展示し、昨年から始まつたフランスギメ東洋美術館での「現代日本の書代表作家41人展SHO-1、100人展SHO-2」の出品作のうち100人展作品を前後期に分け

20日の表彰式では午前中に折から来日中のギメ東洋美術館ソフィ・マカリウー館長がギメ美術館のコレクションを中心に講演され、後半は島谷弘幸東京国立博物館副館長とのトークを交え400名を超す参加者で盛況であった。午後からの表彰式は2000名を超す参列者で賑わい、続いて開催の祝賀懇親会も盛況であった。

が行われ、15日下谷洋子・辻元大雲が、18日には島谷弘幸東博副館長、種谷萬城白扇会理事長が小竹さんを囲んで、楽しく内容も多岐にわたつて多くの観客を沸かせた。



ギャラリートークの模様

小竹石雲書展=ふるさと吉備の韻

本院常務理事の小竹石雲さんが東京銀座で大作中心の大個展を開催された。

地元岡山ではこれまで数度個展を開催されているが、東京では初めての開催となる。7月14日陳列日夕刻からの祝賀会では多くの御来賓においでいただき、田宮文平、石飛博光、江田五月、糸賀靖夫、本院顧問恩地春洋の各氏から激励と称賛のお言葉をいただき感謝、素晴らしい作品内容に多くの方からお褒めのお言葉を賜った。石雲氏により、正に正念場としての個展開催であるだけに感慨も一人のことと思う。

会期中には2度のギャラリートークが行われ、15日下谷洋子・辻元大雲が、18日には島谷弘幸東博副館長、種谷萬城白扇会理事長が小竹さんを囲んで、楽しく内容も多岐にわたつて多くの観客を沸かせた。

小竹さんの個展会期と重なつてわが書道芸術院関係の書展が同時開催され銀座通りなどは院一色の感があった。

銀座文藝春秋画廊での4人展は14日から前田龍雲・飯田春香・崎井恵風・高田春来の各氏。竹橋のアートサロン毎日ではみちのく展が行われ、坂本素雪代表以下青森・岩手・宮城各県の作家が集つた。書泉会は下谷洋子代表らが創作と臨書作品を銀座清月堂画廊にて発表。玉松会は黒川江偉子氏を前面に、それぞれ特色ある作品が発表された。

毎日研修旅行団の同窓展も、大黒屋ギャラリーでは豊峯会（工藤永翠）、印象社ギャラリーでは楽竹の会（小竹石雲副団長、佐藤菜扇、木佐貫鮮水）などにぎやかに開催された。

書と資料でたどる 生誕百年

種 谷 扇 舟 展

会期 平成26年7月29日(火)

～8月31日(日)

会場 成田山書道美術館

千葉県成田市640

併催 第41回千葉日報書道展 Tel 0476-24-0774

第54回白扇書道会展 7/29(火)～8/10(日)

8/16(土)～8/31(日)

春洋会四人展・みちのくの書人達展・書泉会など開催

書道芸術院主催の出品者懇親会が近くの芝パークホテルにて200名近い参加者で和やかに行われた。

現代詩文書

(五)

熊谷宗苑

現代詩文書の書表現も時代の変化に呼応し多様な変化をみせています。



「柳澤桂子の歌」第66回書道芸術院展

熊谷宗苑書

これから尚のこと自己表現の場として変化発展していくとき、過去にとらわれることなく鋭敏な感覚と高い表現力を身につければならないと思っています。

現代詩文書に取組み始めた頃、所属する会の練成会に面白目に参加していました。先生方のお書きになる作品を拝見するたびに、いつも自分もあの様な作品を書けるようになりたいものとせつせと通っていました。濃墨、羊毛超長

峰、細線での作品制作が主流でしたが、如何せん生来の悪筆でその主流から外れていったような気がします。直・側筆を意識し、線質の多様性を求めての試行錯誤でした。そのような時期、同郷の今は亡き男尾柳屋先生（院参与）が他社中の私らに“そのまま書き進んでいいんだよ”と励まして頂いたのが今でも有難く懐かしい思い出です。

この作品は第66回芸術院展に出品したものです。かつての濃墨、羊毛超長峰、細線での作品制作に挑戦してみたいと思いました。如何にすべきか今回も苦しい思いを充分に味わいました。発展途上の作品と捉え出品した次第でした。

21世紀の書

—私の主張—

前衛書

(五)

大石仙岳



2010年 秋季展

大石仙岳書

高知・東京そして鳥取などで開催された院の単位認定講習会に参加させて頂き、様々な発見、様々な知識を得て私の次なる制作に大いに役立ち、自信の持てる作品への意欲が湧く。

最近、芸術院や毎日書道会などから中国へ派遣されて、生きた勉強だと考え見て広めてきた。現地で受けた衝撃と感銘を書にしていきたい。そして先ずは臨書からだと印象を深くした。

現代書は簡潔な造形前衛書の要は、簡潔な造形である。

次に、革新の書で、視覚に訴える独自性のある造形作品であること、更に、マッネリ化しない斬新さのある作に。これが現代書の原点だと思う。

また、作者の思いが最後まで貫しているように表現の工夫をする。そして品のある奥深い作品に仕上げること。

以上が作品造りのステップだと考える。加えて、人の目を引く作品に!!採色もよし、でも意味のない着色はダメ、大胆で迫力があり生気に輝く作に。

企画展示 每日書道・海外展のあゆみ

—世界37都市での国際交流の軌跡—

併催 2013パリ展「SHO 2」帰国展示

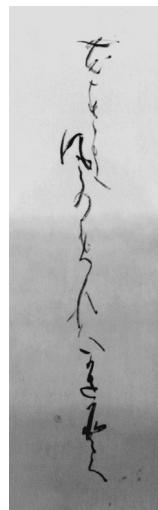
7月9日[水]~8月3日[日] 国立新美術館



「能登珠洲ノ海」 船本芳雲



「仁者樂山」 石飛博光



「風」 松井玉等



「繼 (KEI)」 中原茅秋



「風 (春の風)」 仲川恭司

「SHO 2」開幕式席上揮毫作家の出品作品

「SHO 2」帰国展示出品者 (50音順)

【前期展】 恩地春洋 鈴木まつ子 中原志軒 三宅相舟	相原雨雪 赤平泰処 小川秀石 柳澤朱篁	青柳志郎 阿部海鶺 片岡重和 鈴木響泉	秋本耿雨 関口春芳 中原象山 山崎暁子	荒金大琳 武田竹影 楳原崩春 西野象山	飯島春美 種谷萬城 那須大卿 林蕉園	石飛博光 辻井京雲 西野象山 吉田青雲	渡部會山 辻元大雲 中井言玉 三宅相舟	薄田東仙 中井浩陽 三上栖蘭 水川舟芳	内山玲子 中西浩陽 三上栖蘭 水川舟芳	押田雪峰 吉田恭司 吉田青雲 宮崎紫光
【後期展】 大平匡昭 下谷洋子 中村小汀 柳澤朱篁	柿下木冠 小川喜久 中村小汀 山崎暁子	加藤煌雪 片岡重和 田岡正堂 永守蒼穹	鬼頭墨峻 醍醐春翠 高際翠邦 西 墨濤	後藤大峰 武田竹影 高橋靜豪 藤野北辰	坂本素雪 種谷萬城 片根冬雨 竹内鳳仙	貞政少登 辻元大雲 北野攝山 千葉蒼玄	坂本大滝 中井言玉 小竹石雲 土屋陽山	澤江抱石 中井言玉 中野北溟 中西東李	鈴木邦子 仲川恭司 林 竹聲 本橋郁子	鈴木大有 中西浩陽 堀 吉光 柳 碧蘚
吉田青雲 宮崎紫光 宮本博志 柳澤朱篁	米本一幸 宮崎紫光 吉田青雲 山崎暁子	渡部會山 渡邊大洲 吉田青雲 山中翠谷	遠藤 疊 浦田草苑 遠藤 疊 山本大廣	大井錦亭 浦田草苑 遠藤 疊 山本大廣	大川壽美子 浦田草苑 遠藤 疊 山本大廣	大野祥雲 小竹石雲 北野攝山 千葉蒼玄	大谷洋嶺 小原道城 竹内鳳仙 土屋陽山	齊田香住 座本大滝 中野北溟 中西東李	坂本素雪 辻元大雲 北野攝山 中野北溟	貞政少登 中井言玉 中野北溟 中西東李
山中翠谷 山田太虛 山田太虛 吉田久実子	渡邊大洲 渡辺墨仙 吉田青雲 吉田久実子	渡辺墨仙 渡辺墨仙 吉田青雲 吉田久実子	山本大廣 山本大廣 山本大廣 吉田久実子	山本大廣 山本大廣 山本大廣 吉田久実子	山本大廣 山本大廣 山本大廣 吉田久実子	荒金大琳 中井言玉 中野北溟 中西東李	飯島春美 中野北溟 中野北溟 中西東李	石飛博光 中野北溟 中野北溟 中西東李	薄田東仙 中野北溟 中野北溟 中西東李	内山玲子 中野北溟 中野北溟 中西東李
吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子 吉田久実子	

毎日書道展は、優れた先達の業績を広く展覧するため、第59回毎日書道展(2007年)での「いまに生きる金子鷗亭の書」をスタートに、過去7回の特別展示を開催。

今年の第66回毎日書道展では、これまでの特別展示に代えて、過去40年以上毎日書道展海外交流の歩みを企画展示。1966年の画家アン・ミロとの芸術交歓以来、世界37都市で繰り広げられた書芸術を通じての多彩な文化交流の足跡が展覧できた。

節目に開催されてきた大きな海外展の軌跡に加えて、2012年からフランス国立ギメ東洋美術館の招請に応えて開催している「現代日本の書代表作家パリ展」の出品作のうち、2014年1月まで開催した同展「SHO 2・100人展」発表作品が前期後期に分けて陳列された。同時に7月20日(日)午前にはフランス国立ギメ東洋美術館ソフィー・マカリウー館長の開催記念特別講演会が東京芝公園にあるザ・ブリッジパークタワー東京で行われた。

礼器碑（後漢）②

〔解説〕 この碑は魯相の韓勅が、秦の始皇帝の暴挙であれはてた孔廟を修復し、礼器を製造して備え、孔子の母方の顔氏と、妻の并官氏二氏の子孫の徭役〔國家の土木工事などの使役〕を免除したことなどが記されています。このように韓勅は、孔子を尊び、その子孫の一族に対しても一般の人々と異なる特別の待遇をしたことが窺えます。そこで人々は韓君の政徳を頌しこの碑を建てたのです。

碑陽は16行で、1行には36文字が刻されていますが、文末の3行と碑陰の両側には、当時この事業に協力した人々の、官職、姓名、字、出資金などが記されています。山東省曲阜の孔子廟にあり大切に保存されてきたため、完好な状態を保っています。正式には「漢魯相韓勅造孔廟礼器碑」と呼ばれますが、簡称して「韓勅碑」「修孔子廟器表」などとも呼ばれます。

(編集部)

特別研究部臨書課題

〔（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）左記の法帖より何文字臨書してもよい。〕

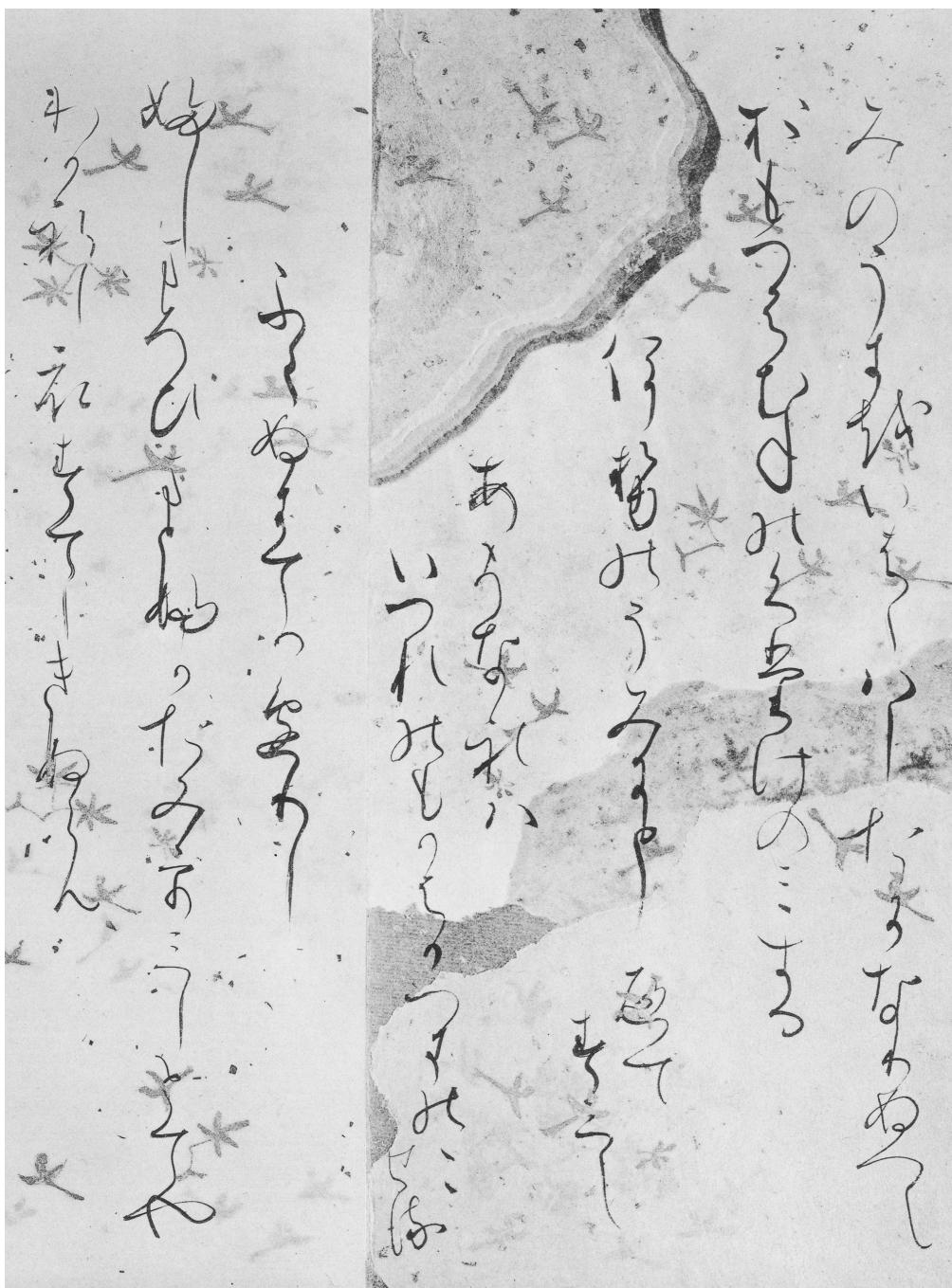


(77%縮小)

※落款を必ず入れる 署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

石山切（伊勢集）
（筆者不明）

②



(90%縮小)

<解説>

伊勢集の諸本は三系統ある。最も古態を残すとされ、諸注が底本に用いているのは西本願寺本であり、他の二系統は歌仙家集本（藤原公任が編者とする歌集）および群書類從本（塙保己が編纂した国文学・国史を中心とする一大叢書）である。冒頭部分は自伝性が強い物語風の記述となっており、のちの『和泉式部日記』などに代表される女流日記文学に先駆けた内容となっている。本歌集收録の歌は『新古今和歌集』や『小倉百人一首』にも採用されている。

※訂正

前号の解説に誤りがありました。
伊勢集に切継はありません。
お詫びして訂正いたします。

(編集部)

<よみ>
みのうき支継をいはゞはしたになりぬべし
おもへばむね能久だけのみする
伊勢のうみにとしへて

すみし

あまなれば礼ハ
ふくぬ支ぎてかへりし

いづれのもかはかづ可者可支能
ふしまろひまどふかたみ平三みじとてや

わかれし衣礼すてく支めらん

かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）
|| 別紙を裁断して貼付也可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨也可）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨
(押印のみ可)

特別研究部臨書課題

|| (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

習い方解説 (五)

辻元大雲

松風斜落徑
(對句集・袁士元)
(松風斜めに徑に落ち)

松風は小道に強く吹き付け、竹の影も揺れ動いて煙のうねをおおう。袁士元の対句の5字句です。次号が後半の5字句で連続します。

今日はややリズミカルに連綿を取り入れての行草表現です。

半紙へ5字表現の場合、前半に3文字、後半2文字表現が多いようだ。やや字粒が小さくなりますが比較的バランスよく収まる表現です。羊毫中鋒の弾力を生かし、筆先の鋭さを意識して表現してみました。

落款は2行目下部にまとめましたが左側に寄せてもいいかと思います。落款は本文の書体と同じでなくとも構いませんが、今回の場合は草書表現に合わせています。自分の名前ですから数種類に書き分けできるようよく練習してください。

松風斜落徑 よみ(松風斜めに徑に落ち)

書体=自由



習い方解説 (五)

小伏小扇

碧梧含早涼
(碧梧早涼を含む)
(劉禹錫)

初唐の三大家の一人、褚遂良の孟法師碑を基に書いてみました。この碑は、褚遂良の46歳時の書です。彼よりほぼ40歳年長の父の友人、虞世南と欧阳詢から、唐代の楷書の粹を学び、漢隸のほか、二王の法を吸収して、自らのスタイルを完成した人です。

一見その平明な書風は、習い易いと感じますが、なかなか奥の深い部分もあり魅力的です。温かく厚みのある豊かな線質は、ゆっくり筆を運びます。



碧梧含早涼 よみ(碧梧早涼を含む)

書体=楷書

かな規定 初段以上【九月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

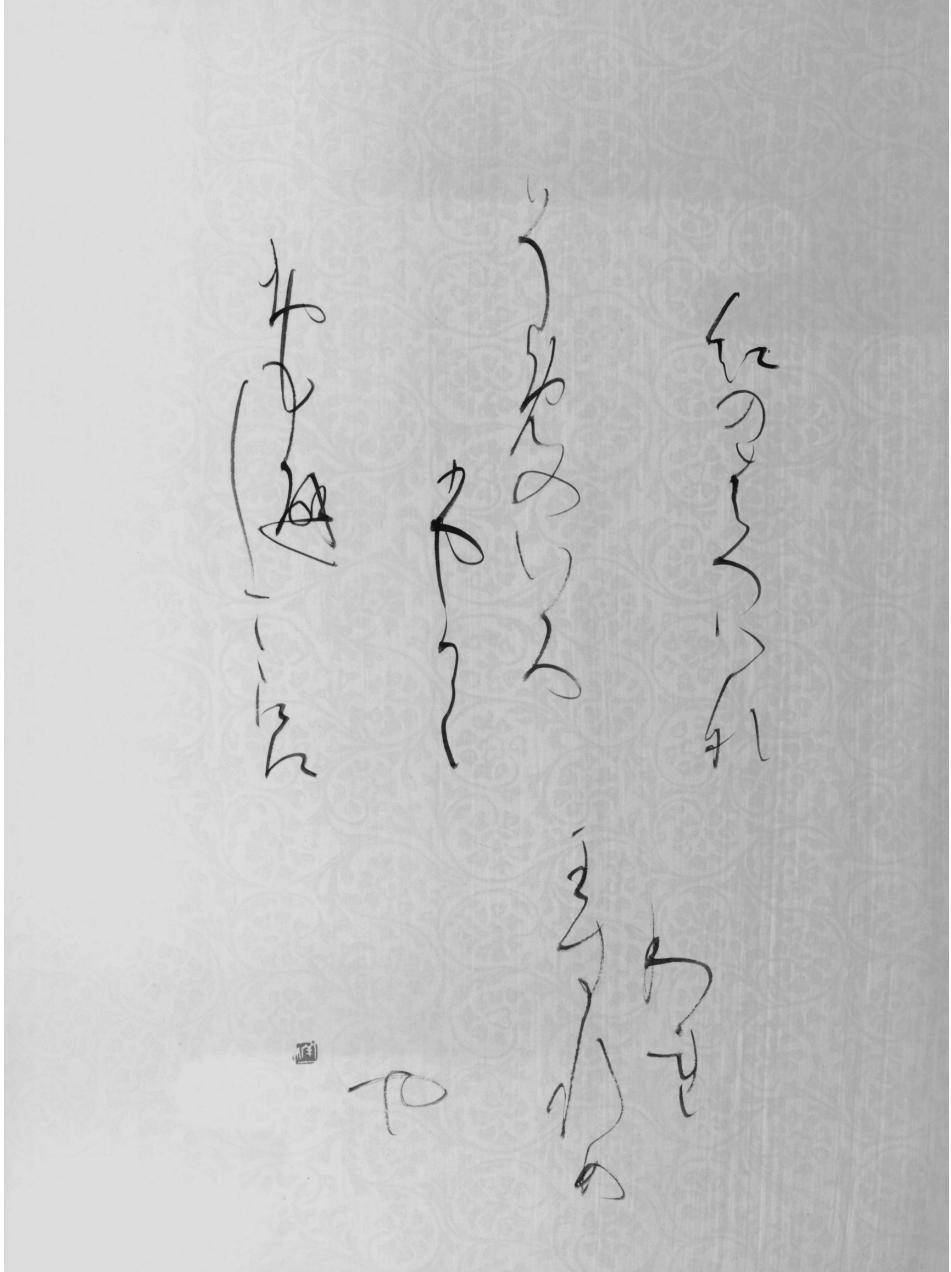
下谷洋子選書

習い方解説(五)

下谷洋子

紅の初花染めの色深く
思ひし心われわすれめや

(古今集)



今回は、上下に分けた散らし書きです。この構成はかなり人気があり、展覧会などでよく見かけます。一見感覚的に散らしたようですが、寸松庵色紙では上下分裂式として名高いものです。上から下には行は移り、下部は全体を引き締める役割をします。行頭・行尾のかなも鎌倉・室町時代になると、かな消息(手紙)という形式になって、上下分裂式をより複雑にした位置・行間のとり方などの変化と調和を理解してから臨んで下さい。

きっとも言える自由奔放な姿は、そのまま歌で表現するには難しいですが、心の赴くままに筆を走らせるには漢字よりもかなか適していました。物語る例として、調べてみたらおもしろいでしょう。

よみ方 紅のは(者)つは(八)な(那)ぞ(曾)め(免)のいろふ(布)か(可)く(久)

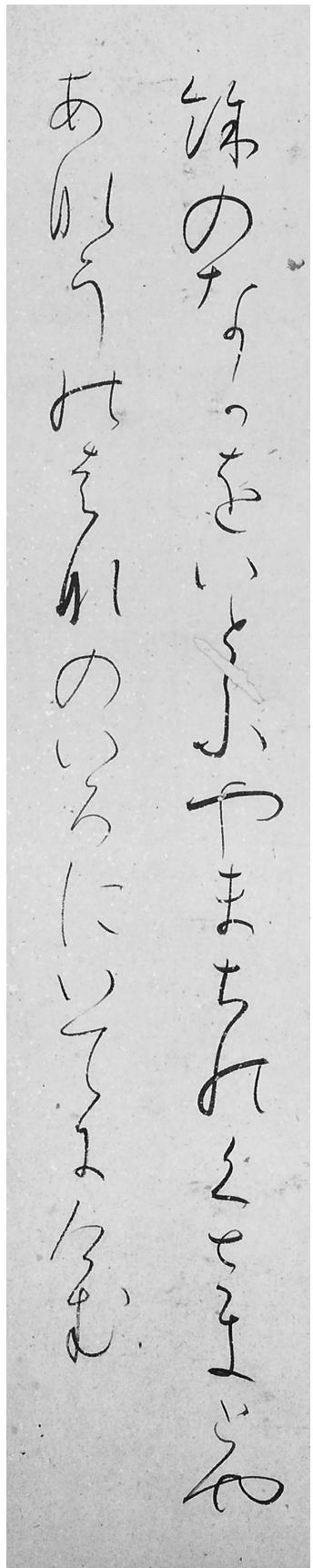
おもひ(避)しこ(ゝ)る(田)われ(連)わ(王)すれめや

創作

かな規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 よ(餘)のなか(可)をいとふやまちの(能)く(久)さき(支)とや
あな(那)うの(能)は(者)な(那)のいろにいだに(尔)け(介)む

かな条幅規定【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

奥田瑞舟選書

習い方解説 (二)

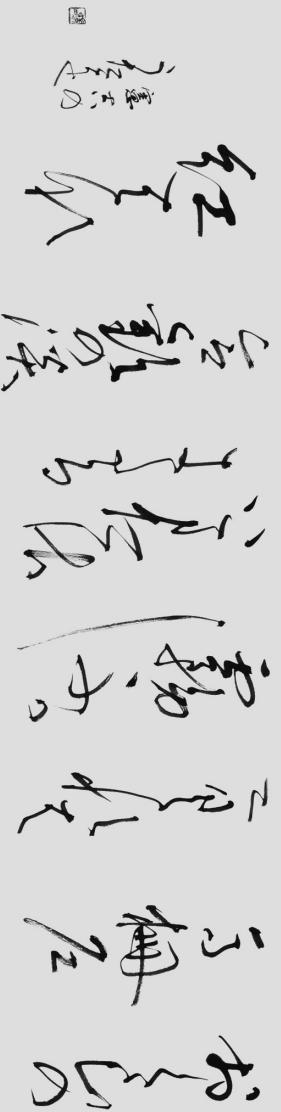
奥田瑞舟

おく山の馬檻戸にくれば霧ふかし
いまだ咲きたる合歓の淡紅ば(者)な(那)
(中村憲吉)

墨が枯れて来て墨をつける。この運筆中の含墨を意識しました。

小さめの筆。潤渴の間隔を短くする。山場(高まる所)を多く作る。その時の含墨の適量はどれ程度か。行の長さ、文字幅等考慮して各行に変化を入れる。行のつくりの中での濃淡が自然に見える事が大切です。

創作



よみ方 おく山の馬檻戸に(1)く(2)いとふやまちの(能)く(久)さき(支)とや
いま(1)ださ(2)き(3)た(4)る合歓の淡紅ば(者)な(那) 憲吉のうたを

出品券
貼付位置

*よじ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (五)

小竹石雲

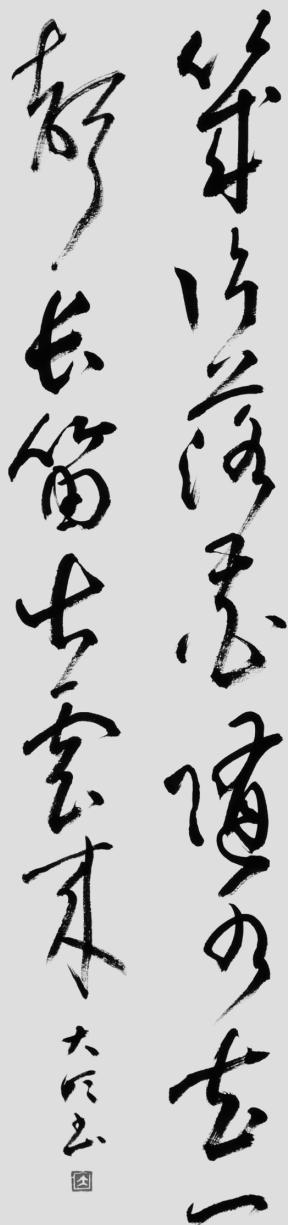


氣淑年和、群生咸遂、雲脫畢臻
(氣は淑にして年は和、雲脱畢臻は安んじ遠きは遠しみ、群生咸遂げ、雲脱畢臻く臻る)

習い方解説 (五)

小浜大明

小浜大明 選書



幾片落花隨水去 一聲長笛出雲來
(幾片の落花水に隨つて去り、一聲の長笛雲を出でて来る)

書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下 【九月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小浜大明 選書

前回と同じ行草体で書きましたが、今回は2行で表現してみました。た。

意味は、幾片かの落花が流れにのって去り、長笛が一声、雲をつきぬけて聞こえる、です。線の肥痩、墨の潤渴に注意して、又、筆脈を切らないように書いて下さい。

2行の作品は行間のとり方が大切になります。近すぎず、離れすぎない様、気を配ってみて下さい。

気候は温暖で四季はめぐり、近くにいるものも遠いものもそれに天の恵みによって生かされているの謂で九成宮醴泉の中から選んでみました。

闊達な動きと、線の切れ、響きに気をつけて書いてみました。「淑」「年」「群」「畢」の縦画と「遡」「遠」「遂」のしんにゅうに変化をつけてみました。各自工夫してみてください。

習い方解説 (五)

小島孝予

名月や北國日和定なき
「定なき」は、日和のことをいい
ながく、そくには定めなき人
の世に対する芭蕉の嘆きみ
の声がひそんでくる。

孝予書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

第三部の宇宙の旅から、第四部では人の世のさまざまな別れを体験する旅となります。こうして別れの悲しみや苦しみに満ちたこの世を、人はどのように生きていくべきなのか——第四部で旅をしながら芭蕉が問い合わせてきたことです。そしてその自問の果てに芭蕉がたどりついた回答が「かるみ」でした。(NHK 100分 de 名著 松尾芭蕉 おくのほそ道 長谷川櫻著 より抜粋) 字の書体は楷書(きちんとした字)・行書(続け字)・草書(くずし字)の3種類です。行書は楷書に比べてやわらかい書体です。それは線や点がつながり、角が円く書かれるからです。また楷書に比べて流動的なので、速度が速くなり、リズム感も出できます。線と線のつなぎ、点画の組み合わせに行書の特色を出してみましょう。

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 638

漢字部 師範 齋藤 早苗
円運動を駆使したリズムに独自なものがいる。磨墨した墨色の美しさも捨て難い。

◎漢字部総評 上級者は「頭」で書きたい。師範の作品の約8割は参考手本通り。文字も辞書で確認する習慣をつけたいもの。(森風評)



漢字条幅部 師範 森下 祥泉
暢びやかな線質が潤滑の変化を自然に醸し出して安定感ある作。大小の変化あればなおよい。

◎漢字条幅部総評 書体は楷行草などあらかじめ設定して制作に臨むが、多彩な表現を求めて色々挑戦を。書風の変化は尚更。(大雲評)



現代詩文書部 特選 井上 天游

胸のすぐような線の切れ味と正確な字形は平素よりの鍛錬の深さが覗えます。特に1行目が良い。

◎現代詩文書部総評 力強い豪快な作品は粗雑であってはいけません。末端まで大切に。(鄭雲評)



かな条幅部 師範 吉田 佑子
強く切れの良い細身の線が、無理なく流れ、涼風の吹き抜けるような作品となり、格調高くモダン。

◎かな条幅部総評 句意を考慮せず無造作に過大な字を並べたもの散見。墨色よく、丁寧な筆致の作品を目指にして下さい。(明子評)



五月雨の降のこしてや光堂
無常迅速な時間によって、何もかも押し流されてしまう運命にあるが、光堂がそれに耐えて残っていることに、芭蕉は心を動かされた。

恵子書



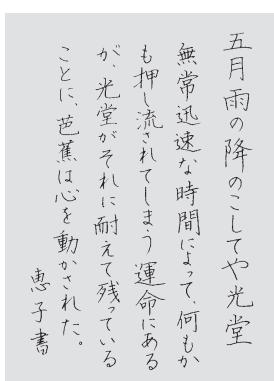
前衛書部 特選 田島富美子

全体を調和させ不思議な世界に誘う創意は理解。力を抜いた運筆も加えて広がりを演出させたい。

◎前衛書部総評 創意が伝わる作品多し。余白の扱いも工夫して快作を目指して欲しい。(慧香評)



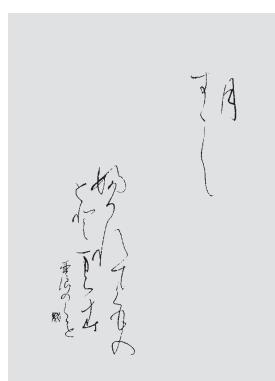
◎かな条幅部総評 句意を考慮せず無造作に過大な字を並べたもの散見。墨色よく、丁寧な筆致の作品を目指にして下さい。(明子評)



かな部 師範 小野寺久美

運腕の大きい伸びやかな線が美しい。行の流れ、転折の扱いも的確で日頃の修練を窺わせる逸品。

◎かな部総評 総じてよく理解して書かれています。オリジナルにされる方は左右への揺れを意識し疎密に気をつけて! (洋子評)



ペン字部 師範 鶴田 恵子

単体ではあるが落款まで氣脈が通じて布置も見事、骨格の確さと1字の中に穏やかさがあり美しい。

◎ペン字部総評 書き出しを大きくして落款まで調和よく布置の良い作品が多く大変良い傾向、今後益々のご研鑽を期待。(和楓評)

五月雨の降のこしてや光堂
無常迅速な時間によって、何もかも押し流されてしまう運命にあるが、光堂がそれに耐えて残っていることに、芭蕉は心を動かされた。

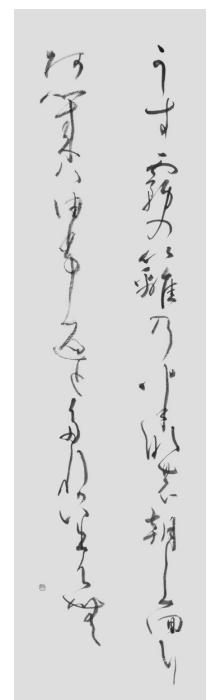
恵子書

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

かな (玉松) 橋本紅霞

「うす霧の…」



178×48cm

橋本紅霞書

臨書 (千葉)

35×135cm

猪又理扇
「臨温泉銘」

◆温泉銘の大らかな暢びやかさをよく捉えている。行間のバランスも自然でよい。さらに研究を。

(大雲評)



134×60cm

現代詩文書 (光風) 千葉光泉

「田中秀典の作詞「守りたい」より」

◆柔らかな筆致で短歌一首を2行にまとめる。無理のない流れある表現に好感。厳しさも欲しい。

(大雲評)

◆2行造形の基本形を良くまとめ上げた。2行目上部の見せ場に渴筆の変化があればさらに線が輝く。

(蒼玄評)

猪又理扇臨

◆一字一字丁寧に書いてこの作品が出来たという事はしばらしい。前半と後半の線に氣脈の連続がほしい。

(倫子評)

◆温泉銘の大らかな暢びやかさをよく捉えている。行間のバランスも自然でよい。さらに研究を。

◆行き届いた臨書です。前半に対して後半は稍、緊張感が途切れたか?作品としての高みを目指に!

(明子評)

◆大小二群に分けて詩情をよく表現している。白と黒のバランスは良いが後半少々走り過ぎたか。

(蒼玄評)

◆上品にまとめて良いが、回転運動の大きさが今一步。古典には時代を経て残った特徴がある。さらなる精進を。

(蒼玄評)

◆朴訥な雰囲気が親しみやすさを感じさせる。構成上やまとまりに欠ける。さらに研究工夫を。

(大雲評)

◆強い思いが先行し、無計画な表現かと思いや、生まれた余白が生きている。美しさも考慮されたし。

(明子評)

◆一言一言しつかりと伝えたいと思う心が墨の変化で強く表現されている。心洗われる感あり。

(倫子評)

千葉光泉書

(倫子評)

◆歌を楽しんでいる心境で筆をはこび、静かな心境を感じさせてくれる。墨色の冴えが欲しい。

◆歌を楽しんでいる心境で筆をはこび、静かな心境を感じさせてくれる。墨色の冴えが欲しい。

(蒼玄評)

臨書（大雲） 神谷雲卿 「臨香紙切」



市川紫泉書

40×148cm

現代詩文書
(八戸)

市川紫泉

「紫陽花の雨に君を想う」

◆墨の固まりと空間を独特の表現でまとめて異色作。かなは原字を考えてデフォルメすること（自戒も含めて）
（蒼玄評）

◆すべての行が2文字、それを意識させない表現に感服。行間処理の困難さを思うが豊かさを感じる。（明子評）
◆のどかで心あたたまる作。ぱつたりと広がりある線質と大胆な余白に詩情を感じる。墨色一考を。

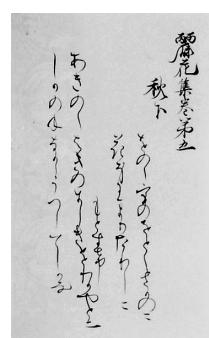
◆紫陽花の花が咲きほこる光景が目に浮ぶ。雨の表現が季節的に雰囲気がピッタリ。心の思いが出ている。（倫子評）



神谷雲卿臨

135×70cm

部分拡大



前衛書 (白珠) 高原梨秀

「宇宙」



高原梨秀書

60×140cm

◆全体の力が筆にのり移り、動きにリズムが出ている。終筆に次の線に移る気が途絶えないよう。
（倫子評）

◆濃墨による鋭い線と動きある渴筆がリズムを醸し出して明快な作。落款部分やや狭くなった感あり。
（大雲評）

◆超長峰の切れ味の鋭い線でまとめた。左右のバランスは良いが造形が丸く同じになつたことは一考を要す。
（蒼玄評）

◆潔く明るい作品です。無駄のない運動が奥行きを創り、まさに「宇宙」です。透明感が魅力です。
（明子評）

◆小さいが動きの大きい細い線の把握が見事です。香紙切用の紙を使用するとさらに霧雰気が近づきます。（明子評）

◆紙の色の彩も加わってかなの優雅な世界を表現した。線は少し強く感じるがくい込みもあり秀作です。（蒼玄評）

◆歌を書く姿勢に最初から最後まで一本ビンと通った意気を感じる。香紙切の世界に浸った感あり。

◆香紙切の細やかな中に大胆なリズムをよく捉えている。紙幅の変化も自然で原帖の雰囲気を感じさせる。（大雲評）

（創作の部）
〔漢字〕 惠雅 板橋 雅邦
前衛 墓宣 鎌木 梅道
漢字 6点
〔特選候補者〕 前衛 18点
漢字 28点
かな 3点
かな 24点
かな 3点

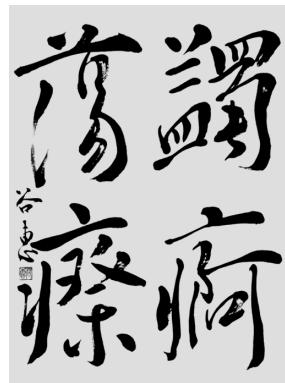
総出品点数
87点

〔漢字〕	惠雅	板橋	雅邦
〔前衛〕	墓宣	鎌木	梅道
〔現代詩〕	白珠	西山	裕人
〔現代詩〕	大雲	小川	白舟
〔臨書〕	もく	西川	藤象
〔香書〕	うる	川崎	鯉舟
〔香書〕	蓮紅	大友	香艸
〔香書〕	行徳	浅見由紀子	香
〔香書〕	森地	東平	游
〔香書〕	大雲	阿部	庄司
〔香書〕	佐藤	惠泉	詠艸
〔かな〕	希雲		

漢字研究部 (温泉銘)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



本郷谷惠

臨書するにはとても難しい個所を選ばれています。原帖の伸びやかさ大らかさを表現しようとすれば字の綺まりが失われ字形のタガがはずれそうになるにも関わらず、見事にまとめきったあたり、相当な実力が伺われます。

◎漢字研究部 総評

太宗皇帝は王羲之の書に惚れ込んだと言わっていますが、同時代の褚遂良の書法も影響されています。

力を与えたことが温泉銘には見て取れます。強
いところを是非学んでほしかったと感じまし
た。上位作品ほどその吊り筆の技術が高く、
ゆつたりとした呼吸で書かれていたがらも筆
脈がきちんと通っていて点画がばらばらに目
えないよう気をつけて書かれていました。
筆墨紙の相性にも気を使って書きたいもので
す。

晨林寒尚早
翠谷尚早寒

調病谷暖
癒瘡先春
尚翠林寒

This vertical calligraphy strip features two inscriptions in large, bold characters. The top section reads '谷暖春光' (Gǔnuǎn Chūn Guāng), and the bottom section reads '霜夕飛火' (Shuāng Xī Fēi Huǒ). To the left of the top section, smaller characters read '祥雲隱' (Xiángyún Yǐn). To the left of the bottom section, smaller characters read '叔春故' (Shūchūn Gù). The characters are written in a cursive script style.

飛灰暖先春
雪晨
亮臨

新續病瘡療瘻方
醫民鑠凍霜夕飛
雪晨林寒尚翠谷
暖光春年序屢易

寒尚翠谷

醫學研究

暖春年

谷暖尚翠谷
暖先春

夕飛炎燎俗
雪晨醫藥民
龍溪先生
惠深

雪晨
林寒
谷暖
岁春

謂病癘
飛炎晨雪

菜有芝順佑依
摘津香子子未

雅富綾美雅
美子善紳邦

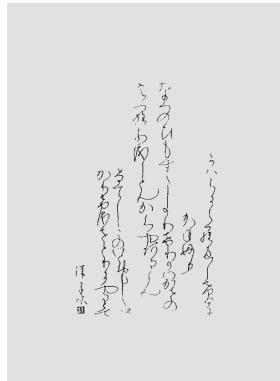
知紅香白叙祥
春雲風雅孝泉

光貴白麻郁梨
實子筭善子季

か な 研 究 部
(香紙切)

選評 勝山初美

今月のホープ作品



石川洋子

◎かな研究船総括

のびやかで軽やかに動く線質は、細い線の先端まで神経が行き届き、流麗な作品となりました。鍛鍊の賜物といえる見事な作品です。

かな研究部成績表

かな研究部 特選		評	
生宇今伊飯青青作	N 安大竜蔥前奥た書上高東玉石蓮草A秀紅う清高紅A有 H 波阪泉書橋田か泉泉崎実松習紅泉！水苑る月井瑠一秋	など幾つかの誤字は、細い線の先端ま で判りづらい箇所もありますが、 下してから臨書しましょう。	かなる研究部特選
由川貴洋江理	伊小天泉坂別小梅都山酒吉橋松本加清門茂飯大松須伊石 藤野羽水本府林津丸縣井田本丸田藤水脇高和田田藤川 寺多佳み由由由ち 良久惠龍里信里地ど令惠真紅愛美龍記信真幹代香寿洋	流麗な作品となりました。鍛錬ま るな作品です。	事
美春華泉子達子	佑美子宝美子風子り予子理麗石雪恵子子蘭生江子舟子子		
大松佳	治 I 京竹や竹童五治 A 玉は玉秀雲上玄や竜若治硯や 竜高大若正竹上高 阪村田 S 橋扇ま扇泉葉田 I 松せ川畠溪泉穹ま泉松田水ま 泉崎雲葉華扇泉井		石川洋子
池青田木	鶴六吉山山柳森森古藤長野長仲中土田高菅佐佐齋後後小黒工木河大櫻 日本田村口田田矢村谷谷中島西尾屋玉橋沢藤々藤藤峰柳藤原岡沢田 木ゆ木川百木か 美美		
萩玉溪枝	か佑祐炎律隆曉潤昌千久喜一游恵光哲雅合雅雅つめ知加竹山輝星淑和 り江子秀子扇博子子子峰子子水溪子輝子泉子美芳え泉子葉房子扇江子		
椿京松翠橋村陵入	白蓮華松調澄千澄大三千幕た高澄正上千 大立幕道土誠書竜三樹京筑大竜広英幕生彩 N 樹大玉前千大岩大上 露紅仙村布春葉春雲鷹葉張か崎春華泉葉”阪精張 氣和游泉鷹原橋桜雲泉島峰張大 H 原阪藻橋葉雲沼阪泉		
安阿阿會藤部久木美代春澤華介	渡遊山茂武宮松増堀伏平林浜根浪永中戸富徳千高鈴杉新庄櫻後近近小高吳熊吉北北岸川葛小荻碓猪磯石生池 邊佐口木藤内重田切見山 野津川井村田田由橋木田谷司田藤藤藤口武 谷瀬村又田田 野原井又貝崎駒田 八八 60 重紅雪翠幸翠華幸華彩玉永飛秋宏ゲ博萩萩白賢え祥翠咏龍祥淑松智文農紫彩恵春東温恵秋玉 理清正秋美 子雅翠芳睦平景秀雲苗華蕙龍花枝子舟彩峯香雲子風光艸貞子子春子城美蘭雨舟映子子光藻弘扇耀子花子		
高華正明千松華漢葉村	千た正英蒼大蒼椿大正蘭汐詢四高大生鬼梓福蘭大艸大こ正澄玄蕙こ清高土誠”澄大澄高石彩筑生正遊 陵仙”華華峰原阪陽翠阪華鼎風扇谷崎阪大高江山鼎雲玄阪こ華春宵書だ月真気和”春阪春真習 桜大華雲		
住鈴實庄嶋洪鹿塙紫猿猿佐斎齋後込小小越小久工陸北岸菊神川川河魯金加加小尾大大江梅白鶴植宇岩岩犬伊伊石池 吉木川司 谷田崎雲渡渡藤藤田藤山林林川板保藤村本池田元崎崎合井岡藤瀬川形内石田山井澤田井根瀬上飼藤藤橋川田 与世 さく木智香喜欣萩善典茱綾優和紫萩秋玉輝紅枝星茂久綾詩美楠恵章郁道敏悦さ津尚子 和智仁玲珍愛志明煥冬草麻早舞喜美晃萩真くら美香喜欣萩善典茱綾優和紫萩秋玉輝紅枝星茂久綾詩美楠恵章郁道敏悦さ津尚子 惠美菜子華江子月華石美苗夢秋艶代江衣ら美蘭代子西高子仙美子敬風美陽夏峯霞子祥夫子乃舟枝麗峯園子石子子子古			
高昌畫東華玉椿玉 遠井苑遊伯祥川翠川くか苑汀水月だ川宣華麗月泉曜阪”春華向澤扇崎珠氣会雲舟大水嶺く汀か宮雲泉畠柳汀氣秋か扇春阪 194吉吉田佐本崎知鈴木吉木野澤崎川庭岡浦田多江井堀澤山谷村本山澤田井藤田澤澤部子泉田田谷井池原中山橋橋司 氏名略 り真一娘美沙悦藤明絢津草英洋美ケ律玉佳和幸智清佳美芝陽雅裕瑠時久古翠蕙白藤紀雪雅稚宏柳芳美真花恵思幸 翠織榮紀江子子子谷香水枝秋明子子ミ子江子枝泉子洗月子香翠詩人美子仙塘玉子雲風子薑雅雲江子源源泉風苑桜			